

令和8年度
教員研修大会

大会テーマ

「創り出そう！こどもの未来を拓く、良質な乳幼児期の教育を
届けよう！こどもと共に生きるよろこびを」

令和8年7月28日（火）
（会場） 幕張メッセ 国際会議場
（主催） 一般社団法人 全千葉県私立幼稚園連合会

基調講演・分科会一覧

	基調講演・分科会テーマ	俯瞰図	講師	備考（準備品・服装など）
基調	AI 共生時代にこそ大切となるヒトが育つための 必要条件—次世代に必要となる幼児教育について考 える	C2	明和 政子 先生 (京都大学大学院 教授)	【事前準備等】なし
1	子どもの「やりたい！」から始まる学び ～失敗を自信の根に～	C2	久保 健太 先生 (大妻女子大学准教授)	【事前準備等】なし
2	遊び論～遊びの実践と理論を極めよう	E4	河邊 貴子 先生 (聖心女子大学 名誉教授)	【事前準備等】なし
3	身体と関わる造形表現「つながる洋服ファッション ショー」	B3	大成 哲雄 先生 (聖徳大学 教授)	【事前準備等】新聞紙朝刊3日分～5日分程度、ハサミ、 ホチキス、スティックのり 動きやすい服装
4	子どもの探究心を育む保育—幼稚園教育要領の改訂 を見据えて—	B2	佐藤 康富 先生 (東京家政大学 教授)	【事前準備等】なし
5	気になる子が安心できる保育・クラス運営	D3	守 巧 先生 (こども教育宝仙大学 教授)	【事前準備等】なし
6	子どもの世界の探究 ～「自ら育つ」0～2歳児～	A4	宮里 暁美 先生 (大阪総合保育大学 特任教授)	【事前準備等】なし
7	幼稚園・認定こども園と保育者養成校との協力体制 の在り方について（仮）	F3	養成校就職担当者	【事前準備等】なし
8	幼稚園・認定こども園における現状の課題と今後の 動向について	C3	全日本私立幼稚園連合会 認定こども園委員会	【事前準備等】なし

AI 共生時代にこそ大切となるヒトが育つための
必要条件一次世代に必要な幼児教育について考える

講師：明和 政子 先生
京都大学大学院 教授

日本では今、生きづらさを抱えるこどもがかつてないペースで増え続けている。こうした時代において、こどもたちの「感じる」ところをどのように育むかはこれまで以上に切実な社会課題である。こどもたちのところの問題が表面化してから、カウンセリングや薬物療法に頼るだけでは遅い。必要なのは、こどもが苦しむ前に心身の不調やリスクを予測し、未然に防ぐためのアプローチを構築することである。世界ではすでに、そのための科学的アプローチが大きく前進している。その最前線にあるのが、身体の内側にある環境、すなわち腸内環境から子ども脳とところを守る取り組みである。私たちは緊張するとお腹が痛くなったり、安心すると満腹感や温かさを感じたりする。「感じる」ところとは、脳-腸の双方向的な相互作用により生じるものであり、生体内で絶え間なく生じる構成要素間の相互作用こそが、自己や他者を感じるところの働きの土台であることが実証されてきた。

生成AIが得意とするのは、大規模な情報の処理や計算能力に基づく「知能(intelligence)」であり、それは意識を前提としない。広い意味では植物も細菌も知能をもっている。他方、「知性(intellect)」は、身体感覚や情動・感情といった身体反応を通じて世界を価値づけ、意味づける力である。「感じる」ところとは、まさにヒトの知性の根幹であり、社会的生物として進化してきたヒト(Homo sapiens)が社会で生存していくために欠くことができないものである。こどもの脳は、大人の脳の単なる小型・ミニチュア版ではない。環境の影響を強く受けながら、個人が生涯もつことになる脳や腸を形成している最中(感受性期)にある存在である。こども期を社会で守ることは生涯にわたる心身の健康を守ることでもある。

<プロフィール>

資格・肩書き： 京都大学大学院教育学研究科教授

最終学歴： 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了

専門： 博士(教育学)、発達神経科学・霊長類学

略歴： 京都大学霊長類研究所研究員、京都大学大学院教育学研究科准教授などを経て、現在、京都大学大学院教育学研究科教授。

現在の活動： 日本学術会議第一部会員、文部科学省科学技術学術審議会委員、こども家庭庁こども家庭審議会臨時委員。ヒトとヒト以外の霊長類を胎児期から比較し、ヒト特有の脳とところの発達の機序とその生物学的基盤を明らかにする「比較認知発達科学」という分野を世界にさきがけて開拓した。

主な著書： 『マスク社会が危ない—子どもの発達に「毎日マスク」はどう影響するか？(宝島新書)』

『ヒトの発達の謎を解く—胎児期から人類の未来まで(ちくま新書)』

『まねが育むヒトの心(岩波ジュニア新書)』など多数。

NHK スペシャル『ママたちが非常事態!? 最新科学で迫るニッポンの子育て1・2(2016年放送)』『ニッポンの家族が非常事態!? 第1集わが子がキレる本当のワケ(2017年放送)』『ジェンダーサイエンス 男X女性差の真実(2021年放送)』等の監修・出演により、現代社会に生きるヒトが抱える問題を最新科学の知見から理解する活動にも力を注いでいる。『あつまれ!ちきゅうキッズ いろりろ(読売テレビ、毎週金曜10:30~)』の監修も行っている。

第1分科会

子どもの「やりたい！」から始まる学び ～失敗を自信の根に～

講師：久保 健太 先生
大妻女子大学 准教授

提案園：敬愛短期大学附属幼稚園（千葉地区）
浄光寺幼稚園（市川地区）

私たちは、子ども一人ひとりの「学び」を大事にしたいと思っています。

ですので、子どもと自然との出会いを大事にしたり、子どもどうしのかかわりを大事にしたり、子どもが自分で試行錯誤したりすることを大事にしています。

しかし、「子どもと自然との出会いが、どうして学びなんですか？」と聞かれても、それに答えるのは、なかなか難しい。「自然に触れることで、知識が増えるんですよ」と答えてみたところで、「私って、知識を増やしたくて、自然との出会いを大事にしているのかしら」とモヤっとする。

また、「子どもが自分で試行錯誤するよりも、先生が、正しいやり方を教えてあげた方がいいんじゃないですか？」と言われると、「たしかにそうなんだけど、必死になって考えている子どもの姿って大事な気がするんだよね」と言いたくなる（けど、それをうまく言えない）。

というわけで、私たちの分科会（フォーラム）では、「学び」って何だろう？ということ、あらためて考えます。「子どもと自然との出会い」「子どもどうしのかかわり」「子ども自身による試行錯誤」。そうした姿を紹介しながら、「学び」とは何かを、参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。

<プロフィール>

久保 健太（くぼ けんた）

資格・肩書き：大妻女子大学家政学部児童学科児童学専攻 准教授

最終学歴：東京大学大学院教育学研究科

専門：教育哲学

現在の活動：大妻女子大学（東京都）で教鞭をとりながら、桐朋幼稚園（東京都）で共同研究を続け、大日向小中学校（長野県）の理事を務める

主な著書：『生命（いのち）と学びの保育哲学—育児と保育・教育をつなぐ—』（北大路書房）
『写真と動画でわかる！「主体性」から理解する子どもの発達』（中央法規）他

遊び論～遊びの実践と理論を極めよう

講師：河邊 貴子 先生
聖心女子大学 名誉教授

遊びの重要性について異論を唱える人はいないでしょう。しかしながら、質の高い遊びの捉え方や、遊びの充実に向けた環境や援助の捉え方は園によってまちまちです。子どもは遊び込みながら社会的な有用性を獲得すると共に、生きる力そのものを高めていきます。「遊び」は、子どもが興味関心をもった身近な環境(文化的実践)に関わることにより生み出されるものであり、遊び手の自発性に支えられて展開します。どのような環境が子どもの自発性を高め、遊び手(=学び手)の学びにつながるのか。具体的な実践例を挙げながら、遊びの理論をおさえると共に、援助の見極め方、環境の構成のあり方について考えたいと思います。

<プロフィール>

河邊 貴子 (かわべ たかこ)

学位(専門)：修士(教育学)

資格・肩書き：聖心女子大学名誉教授 博士(教育学)

最終学歴：東京学芸大学教育学研究科修士課程

専門：幼児教育学

略歴：日本保育学会、日本乳幼児教育学会理事

現在の活動：主な研究課題は保育記録論と遊び援助論。園内研修への参画を通して現職の先生方の支援に東奔西走している。医療と地域をつなぐNPO法人の活動やホスピスに絵本を届けるボランティア活動もライフワークの一つ。

主な著書：『目指せ 保育記録の達人』共編著、フレーベル館、2016

『遊びを中心とした保育～保育記録から読み解く援助と展開』萌文書林、2020

『遊びが育つ保育～ごっこ遊びを通して考える～』共著、フレーベル館、2020

『遊びが育つ保育Ⅱ 遊びとクラス活動のデザイン』共著、フレーベル館 2025

『ジューンベリーの樹の下で』ななみ書房 2025 その他多数

第3分科会

身体と関わる造形表現「つながる洋服ファッションショー」

講師：大成 哲雄 先生
聖徳大学 教授

本活動は、身体と関わる造形表現を通して「人と人がつながることの大切さ」や「関係性」を体感的に学ぶことを目的とします。素材には身近な新聞紙を用い、数名（6,7名）のグループで、必ず誰かとどこかがつながる構造の「つながる洋服」を制作します。個々が独立しながらも他者と関係し合う状態を、身体を通して可視化します。

制作の過程では、新聞紙の特性を整理し、折る、破る・巻く・結ぶといったシンプルな行為を手がかりに、素材の特性や身体の動きを活かしながら自由に発想を広げます。同時に、相手との距離感や動きの調整、意図の共有など、他者と関わる力が自然と求められます。完成後はファッションショー形式で発表します。実際に着用し、動きやポーズを考え表現します。つながることの面白さや難しさなど、活動を通して気づいたことを共有します。

また本活動は、遊びの中でこそ主体的な学びが生まれるという視点にも基づいています。試行錯誤や偶然の発見を楽しみながら、協働する喜びや表現の広がりを経験し、それらを日々の保育実践へとつなげていくことを目指します。

<プロフィール>

大成 哲雄（おおなり てつお）

学位（専門）：修士（美術）

資格・肩書き：聖徳大学教育学部児童学科 教授
聖徳大学通信教育部長、聖徳大学オープンアカデミー校長

最終学歴：東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修士課程

現在の活動：美術科教育学会会員、大学美術教育学会員
全国大学造形美術教育教員養成協議会常任委員、他

主な著書：「実践事例にみる ひと・まちづくりグローバル・コミュニティの時代」共著/2013年/ミネルヴァ書房
「美術の授業のつくりかた」共著/2020年/武蔵野美術大学出版局
文部科学省検定中学校美術教科書「美術1」、同「美術2・3上」同「美術2・3下」共著/2020年/開隆堂出版

第4分科会

子どもの探究心を育む保育—幼稚園教育要領の改訂を見据えて—

講師：佐藤 康富 先生
東京家政大学 教授

現在、次期幼稚園教育要領の改訂作業が進んでいます。その中で、直近の改訂で示された「育みたい資質・能力」や「主体的・対話的で深い学び」の深化が求められています。

そこで、本分科会では保育の中でどのように「主体的・対話的で深い学び」を保育の中で行っていくのか、具体的事例をもとに考えていきましょう。なかでも、そのような子どもの姿に基づくカリキュラムのあり方、いかえれば、子どもの興味関心に応じたカリキュラム、保育、エマージェントカリキュラムについても触れていき、「架け橋期のプログラム」についても検討していきます。同時に、子どもの姿の何をどう評価するのかについても、一緒に考えていきましょう。

各園の保育が豊かになり、明日をイキイキと生きる子ども達を育む、未来を創る保育を実践していきましょう！！

<プロフィール>

佐藤 康富（さとう やすとみ）

学位（専門）： 幼児教育学・保育学 幼保小連携 ドキュメンテーション研究

資格・肩書き： 東京家政大学短期大学部 教授
東京家政大学東京家政大学大学院 教授

略歴： 玉川大学大学院修了。玉川学園小学校教諭・幼稚園教諭を経て、保育者養成の道に入る。子どもの協同性についての研究を起点に、アカデミックな学びとは異なる子どもの学びについて考察を深め、ニュージーランドのラーニングストーリーやスウェーデンの教育学的なドキュメンテーションについて研究し、日本なりの子どもをエンパワメントする保育計画・保育記録・保育評価についての構築を試みている。

現在の活動：川崎市こども子育て会議委員 中野区・豊島区・練馬区・港区・相模原市・横浜市 研修講師

主な著書：「探究心を育む 保育内容『環境』」大学図書出版
「写真とコメントを使って伝えるヴィジブルな保育記録のススメ」鈴木出版
「幼児期の協同性における目的の生成と共有の過程」保育学研究
「幼児期における思考力の深化過程に関する研究」鎌倉女子大学紀要

気になる子が安心できる保育・クラス運営

講師：守 巧 先生
こども教育宝仙大学 教授

「気になる子」がなぜ気になってしまうのかには、さまざまな要因がある。その中で保育者にできる最も重要なことは、保育環境を適切に整え、「気になる子」が気にならないよう工夫することである。また、保護者対応を的確に行い、家庭に由来する要因にも働きかけ、少しでも変化を促すことも求められる。

本講義では、特に現場における保育環境の工夫や設定に焦点を当てる。具体的な事例をもとに、「気になる子」の困り感を軽減する実践を紹介し、その工夫や設定の意図を学ぶ。そして、それぞれの園の環境や子どもの特性に応じて、個別具体的に実践へと落とし込む力を養う。さらに、「気になる子」という個別の視点にとどまらず、「気になる子がいるクラス」をどう保育するかという視点から捉え直す。気にならない子どもたちへの関わりも含めたクラス運営の理論を再考することで、子どもの本来の姿を尊重しながら保育を行う力を身につけることを目指す。

<プロフィール>

守 巧 (もり たくみ)

学位(専門)：修士(人間福祉学)

資格・肩書き：こども教育宝仙大学こども教育学部 教授

最終学歴：聖学院大学大学院人間福祉学研究科 修了

専門：幼児教育学・保育学・特別支援教育学

略歴：幼稚園教諭としてクラス担任等を経て、2014年より東京家政大学講師、2020年よりこども教育宝仙大学教授となり、教育者の養成を行う。

現在の活動：こども教育宝仙大学で教授として教員の育成に当たられつつ、埼玉県狭山市就学支援委員会委員、狭山市巡回相談員として現場の教員と共に活動し、公益財団法人幼少年教育研究所「気になる子ども」の保育研究部会会長として、障害児保育の推進、保育の質の向上等の課題に取り組む活動も行っている。講師としても各地で多くの研修会を担当している。

主な著書：「気になる子がイキイキと！インクルーシブな保育でクラスが変わる！」
「少しの工夫で変わる！気になる子が過ごしやすくなる保育の環境構成」
「“気になる子”の気になる保護者」
「気になる子の保育『伝わる言葉』『伝わらない言葉』」
「気になる子とともに育つクラス運営・保育のポイント」

子どもの世界の探究
～「自ら育つ」0～2歳児～

講師：宮里 暁美 先生
大阪総合保育大学 特任教授

0～2歳児の子どもたちを見ていると、「自ら育つ」という言葉が浮かんできます。遠くの音に気がついてじっとその方向を見たり、目の前で揺れる光に気づいて手を伸ばしたりします。心が動き行動する子どもたち。そこには、はっきりとした「その子の意思」があります。子どもたちの具体的な姿から、0～2歳児とは、どのような存在なのかを考え合います。

子どもの動きに呼応するように関わる保育者がいることで、子どもたちは安心して動き出します。保育者が醸し出す明るい雰囲気の中で、うれしい時間が紡がれていきます。子どもたちがいろいろなことをやり始めるためには安全基地が必要です。安全基地があることで、子どもたちの挑戦が始まり、自分らしく育って行きます。挑戦を支える保育者の関わりの中に、「見守る」「手伝う」に加えて「一緒に楽しむ」があります。子どもの理解者であると共に、今を楽しむ存在としての保育者像についても考え合いたいと思います。

0～2歳児の子どもたちの姿から見えてくること、愛情豊かに応答的にかかわる保育者の動き、子どもの周りにあるモノやコトの在り方などを検討し、子どもの世界を探究していきましょう。

<プロフィール>

宮里 暁美 (みやさと あけみ)

資格・肩書き：大阪総合お保育大学特任教授・お茶の水女子大学客員研究員

最終学歴：お茶の水女子大学家政学部

略歴：国公立幼稚園教諭、お茶の水女子大学附属幼稚園副園長を経て、十文字学園女子大学幼児教育学科教授として2年間保育者養成に携わる。平成28年4月から5年間、お茶の水大学人間発達教育科学研究所教授・文京区立お茶の水女子大学こども園園長として園運営と研究に取り組む。令和3年4月からお茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション寄附講座教授、文京区立お茶の水こども園運営アドバイザーとして園運営をサポートし、研究と発信を重ねている。

現在の活動：乳幼児保育、保育マネジメント、森林教育等に関する研究に取り組む。
一般社団法人そだち・からだ・あそびラボ代表、株式会社えんのした顧問
一般社団法人倉橋惣三協会副代表。

主な著書：

『新しく生きる一津守真と保育を語る一』共著、2009年（フレーベル館）

『今、この子は何を感じている？0歳児の育ちを支える視点』共著、2023年（ひかりのくに）

『耳をすまして目をこらす～いろとりどりの子どものきもち～』単著、2021年（赤ちゃんとママ社）

『ふしぎはっけん！たんきゅうブックかがく編』監修、2023年

『ずれを楽しむ保育 子どもの思いが輝く遊び・生活』編著、2024年（中央法規出版）

『「やりたい」を引き出す！宮里先生の子どもが伸びる育児のレシピ』監修、2025年（講談社）

『最後まで（大変と思わない）うれしい保育』編著、2026年（風鳴舎）

第7分科会

幼稚園・認定こども園と保育者養成校との協力体制の在り方について（仮）

講師：養成校就職担当者

「求人を出しても応募が来ない…」という悩みは、どの園でも共通でお持ちのことと思います。幼稚園教諭、保育教諭の有効求人倍率は依然として高く、保育士も含めた保育業界全体で人材獲得競争は激化の一途をたどっています。一方で、保育者養成校でも入学者の減少傾向は続き、各校では様々な工夫をしながら学生獲得に向けて取り組みを行っているところです。

幼稚園・認定こども園と保育者養成校が手を取り合い、この難局を乗り越えていくためには、お互いの状況や取り組みを十分に理解し、課題を明確にしながら、協力していくための方向性を見つけていく必要があります。そこで、今回の研修では、保育者養成校就職担当者の皆様にパネルディスカッション方式で現状を語っていただく中から、課題を顕在化し、その解決方法や、今後の取り組みについてともに考える機会を作っていけたらと思います。

後半は、質疑応答の時間を設け、養成校担当者と参加者が本音で語り合える場にできたらと考えています。

たくさんの方のご参加をお待ちしています。

第8分科会

幼稚園・認定こども園における現状の課題と今後の動向について

講師：全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会

子ども・子育て支援新制度が施行10年を終えて新たなステージを迎えています。幼稚園を取り巻く大きな環境の変化と少子化の進行の中で、更なる園経営の工夫と努力が求められています。

本分科会では、「幼稚園・認定こども園における現状の課題と今後の動向について」というテーマで、全日本私立幼稚園連合会認定こども園委員会より情報提供を行っていただきます。また、当連合会の子ども子育て支援新制度委員会の各委員から、園経営の現状と課題、地域行政との関り方などの報告を行います。

最新の情報を基に、諸課題への解決策と展望、これからの園経営の在り方について探っていきたいと思います。